

7～9月期の米新車販売は個人消費を押し上げ

9月の米新車販売は前月比8%増加の1,310万台と急増し、供給制約などで落ち込む前の3月水準を回復。7～9月期の新車販売は急増し個人消費を押し上げ。但し、日本車は未だ一人負け。

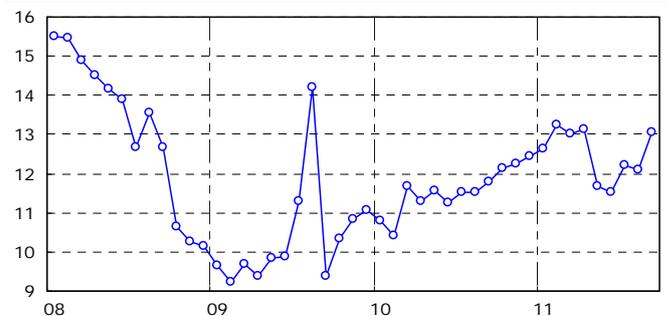
9月の米新車販売台数は前月比8.0%の年率1,310万台と急増し(Autodataベース)東日本大震災に伴うサプライチェーン途絶による供給制約などで急減する前の3月水準を概ね回復した。

9月は日本メーカーを中心とした供給制約解消や各メーカーによる新モデル投入、積極的な販売促進が押し上げに寄与したほか、ハリケーン襲来によりディーラーが閉店を余儀なくされ、8月下旬の購入予定が9月に持ち越された影響もあると考えられる。9月の販売内訳では、国産車が前月比6.9%、輸入車が前月比11.9%と特に輸入車が堅調だった。車種別には、Light Trucksが9.6%と急増、Autosも6.2%と増加している。

9月の米新車販売台数は前年比10.1%と前年水準を一部以上も上回った。メーカー別に見ると、欧州車が24.2%と2割超の高い伸びを示したほか、G3(前年比16.8%)や韓国車(14.4%)も二桁増加を確保している。対して、日本車は1.9%と5ヶ月連続で前年水準を割り込み、未だ低調である。当社試算の季調値で見ると4ヶ月連続で前月比プラスを確保し、供給制約の解消を受けて徐々に回復へ向かっているものの、販売水準は未だ低く、一人負けの状況にある。日本車の販売シェアは2009年に40%を超えたが、2010年に39%程度に低下、7～9月期は35%も下回っている。新モデル投入などにより、米国における販売シェアを今後、どの程度、回復できるかが注目されよう。

4～6月期の米新車販売台数は前期比年率23.9%と急減し、個人消費を前期比年率1.1%Pt程度も押し下げた(当社試算)。一転、7～9月期の販売台数は4～6月期を年率11.3%も上回っており、個人消費を0.4%Pt前後、押し上げる見通しである。構築物投資の堅調推移などもあり、現時点までの指標で判断する限り、7～9月期の実質GDP成長率は年率2%を若干上回る可能性が高い(4～6月期の成長率は1.3%)。

米新車販売台数の推移(年率、百万台)



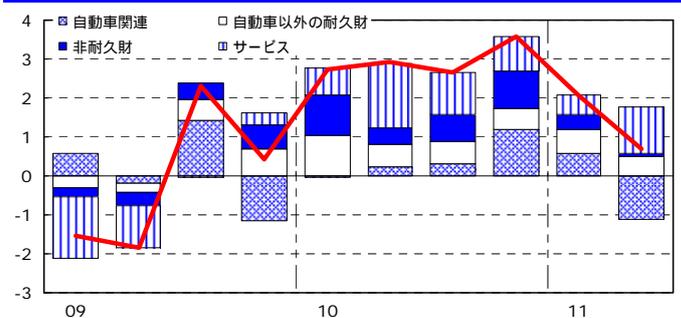
(出所)CEIC Data, Autodata

各国メーカー別販売台数の推移(季調値年率、百万台)



(出所)Bloomberg

個人消費の推移(前期比年率、%)



(出所)U.S. Department of Commerce

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、伊藤忠経済研究所が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。記載内容は、伊藤忠商事ないしはその関連会社の投資方針と整合的であるとは限りません。